



学校だより

わかまつ

鈴鹿市立若松小学校

No. 20

令和7年8月20日

㊦くわく㊦がやく子 ㊦なび合い㊦ながる子

☆6年「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

本年5月に6年生を対象に「令和7年度全国学力・学習状況調査」が行われました。

この調査は、児童の学力学習状況を把握し、授業や生活習慣の改善に役立てることを目的としています。本校では調査実施後に全教員で採点と分析を行い、その後の指導にいかせるよう研修を重ねてきました。文部科学省の調査結果発表後も再度全教員で結果分析を行い授業改善に努めています。次の結果をご覧ください、夏休みと2学期の家庭での過ごし方についてお子さんと話していただく機会にしていただけたらと思います。よろしくお願い致します。

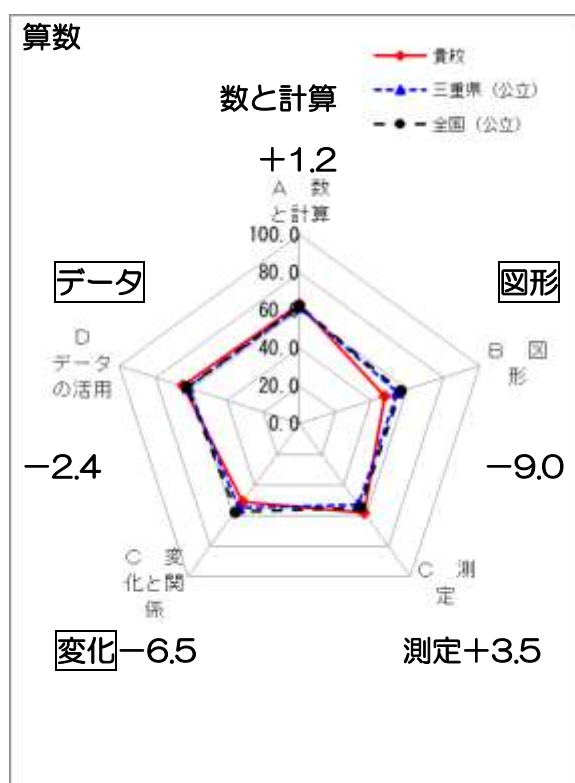
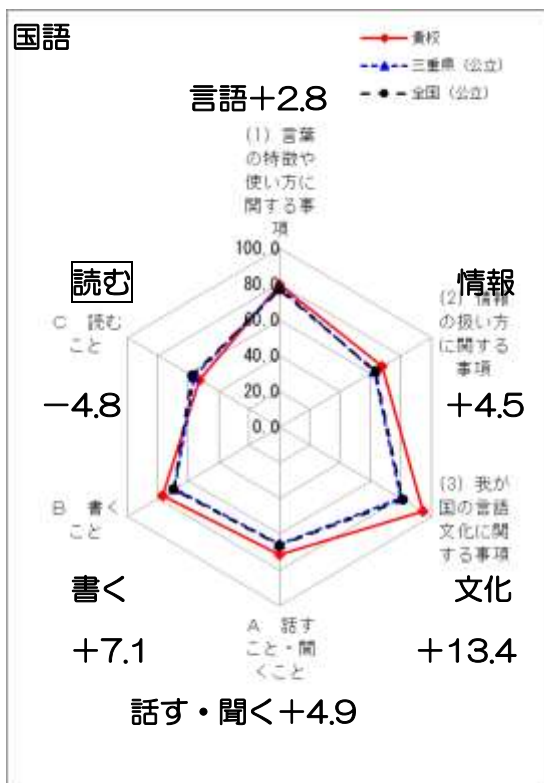
市内の共通課題として、学習や読書の時間が短く、スクリーンタイム(テレビやゲームなど画面を見ている時間)が長い傾向があります。学校運営協議会の場でも調査結果をお伝えしてご意見を頂く予定です。成果や課題を学校・家庭・地域の皆様と共有し、取組をさらに充実させていきたいと思ひます。よろしくお願い致します。

平均正答率(%)の比較

1 各教科の調査結果から (1) 平均正答率について

	国語	算数	理科
三重県(公立)	4.0	0.0	8.0
全国(公立)	3.2	▼1.0	6.9

(2) 内容別【国語】・領域別【算数】ごとの平均正答率の概要 (本校と全国の比較)



さくねんど けんしゅう おこな ことごと ぜんたいで きん ぜんこく へいきんせいつうりつ うわまわ
昨年度まで研修を行ってきた「国語科」では、全体的に県・全国の平均正答率を上回っていました。

しかし、「C読むこと」は全国と比べて苦手な傾向が見られます。それは、次のことと関係がありそうです。

じどうしつもんし どくしよ す ひていてきかいどう わりあい ぜんこく たか へい
児童質問紙の「読書は好きですか」の否定的回答の割合は48.6%と全国よりも18.4ポイント高く、「平
じつ どくしよ まった わりあい ぜんこく たか
日に読書を全くしない」割合は48.6%と全国よりも19.4ポイント高くなっています。また、「平日に家庭
で1時間以上学習している」割合は、全国の54%に対して本校は22.8%でした。学校以外の時間に、
もじ した じかん も かだい い ひ つづ ひ ごろ ぶんしょう した き かい いしき
文字に親しむ時間を持つことが課題と言えます。引き続き、日頃から文章に親しむ機会を意識して
「読み取る力」を養いたいと思います。今後もぜひ読書や家庭学習の取組にご協力ください。

さんすう か けん ぜんこく へいきんせいつうりつ したまわ になて りょういき かつよう ずけい
「算数科」では、県・全国の平均正答率をやや下回っていました。苦手とする領域は、データ活用、図形、
へんか かんけい しりょう ぶんしょう ひつよう よ と かんが りょういき い けいさん
変化と関係など、資料やデータ、文章などから必要なことを読み取って考える領域と言えます。計算をす
る、測定するといった基礎基本の力は定着していることから、国語科の「C読むこと」の力を身に付けな
がら、苦手と考えられる領域の問題に取り組みでいきたいと思っています。6年生では、3学期を中心に復
しゅう じかん よてい ねんせい ぜんこくがくりよく がくしゅうじょうきょうちようさ まちが おお
習の時間をとる予定です。また1～5年生では、6年生の全国学力・学習状況調査で間違いの多かった
もんだい かくにん げんざい がくねん ていねい しどう
問題を確認して、現在の学年で丁寧に指導するようにしていきます。

2 課題改善に向けた取組について ・・職員で話し合い取り組んでいるものの一部です

- ・ これまでに習った公式や計算方法も、授業のなかで、できる限り復習して理解を深められるようにする。
- ・ じどう じゅぎょう じどう じゅぎょう か しぼ か くふう
児童が授業の「ふりかえり」を書くときに、ポイントを絞って書けるように工夫する。
- ・ かがていがくしゅうきょうかしゅうかん せってい かがてい れんけい じしゅがくしゅう どくしよ ていやく とく
家庭学習強化週間を設定して、家庭と連携して自主学習と読書の定着に取り組む など

☆「読んで聞かせるから始める読書」・・言葉をストック！【8月7日】

がつのか こ どくしよけんきゅうはん がくしゅうかい どくしよ きむらゆみこ はなし き
8月7日(木)に子どもの読書研究班の学習会で、JPIC読書アドバイザーの木村由美子さんのお話を聞
き かい しようかい ほん よ りゆう きょうせい いや ほん よ
く機会がありましたので紹介します。こどもが本を読まない理由は「強制されるのが嫌」「本がスムーズに読
めない。」「自分に合う本がわからない。」など様々ですが、「読書の時間がない」「他の娯楽、習い事に
じかん ばあい じかん つく ほうほう おし まじかん つか こ ほんず
時間をとられる」場合は、時間を作る方法を教えて「すき間時間を使うようにする」とよい。子どもを本好きに
するには、「本のある環境をつくる」といわれました。例えば、リビングに本棚を置いたり、本屋や図書館
に連れていったり、毎日読み聞かせをしたりするとよい。読み聞かせは「ひとつふたつ…ここのつ」と「つ」
のつく年齢までは行うとよい。そして、一番印象的だったことは **書き言葉をストック**することの大切さです。

おとな まん まん ごい も かがてい かいわ ご りよう ほん
大人は3万から5万の語彙を持っているが、家庭の会話では1000語くらいの利用ですんでいる。本を
よ しゅうかん こ ごい ふ にちじょうことば ご ひろ
読む習慣のない子どもは、語彙は増えず、日常言葉だけだと1000語から広がらない。**語彙を増やすには、**
ほん 本しかない。小さいうちに読み聞かせて、書き言葉を聞かせてもらわないと、言葉をストックできない。例え
ば 国語で習う「ごんぎつね」の会話は、実は「書き言葉」の会話となっている。それは、必要なことが伝わり
やすいように書かれているからで、このように本の中の書き言葉は、普段の言葉とは違う。本に慣れていない
こが1ページに1～3%意味の分からない言葉があると読むのを諦めてしまい、文意が分からなくなっ
ていく傾向が強い。2学期から、読書を通して「書き言葉」のストックを貯めていきましょう…。

☆4・5年「みえスタディ・チェック」の結果について

県との平均正答率(%)の比較

	算数	国語	理科
4年生	▼9.4	▼4.1	
5年生	6.9	▼0.3	3.7

4年生と5年生も1学期に県の「みえスタディ・チェック」に取り

組みました。1学期末の「あゆみわたし」の時に、個別の結果をお渡

したものです。今回は、学年の傾向をお知らせします。

4年生の算数科の領域ごとの結果を見ると、「数と計算」では、6

問のうち、県と比較して+8.57から-13.9まで得意と不得意の問

題で差が見られました。今後も、授業の中で、九九や足し算・引き算といった基礎基本の計算方法の確認を

行いますが、家庭学習の時間や一人一台端末を使った計算練習の復習を通して定着を図っていきたく

思います。また「データ活用」では県と比較してひらきがありました。これは、6年生と同じく、国語科の「読

む」の領域と関係がありそうです。何が書かれているのかをじっくりと「読み取る力」の育成に注力してい

たいと思います。

5年生の算数科の領域ごとの結果を見ると、「図形」は県を上回っていましたが、「データ活用」では

+36.2から-4.2、「数と計算」では+6.3から-11.9まで差がみられました。国語科の領域ごとの結果で

は、「話す・聞く」で-0.3と-1.9とやや低く、「読む」は-9.6と-12.1でした。「知識・技能」は+18.2か

ら-23.9の問題もありました。5年生においても、じっくりと「読み取る力」を育成しながら、落ち着いて内容

を聞き取る力も育成していきたいと思います。